

大腸癌肝転移における後方視的予後解析について

本研究は診療情報を用いる後ろ向き研究です。対象となる患者さんでご自身の診療情報の研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

【目的】

大腸癌肝転移のうち肝切除を施行した症例において、無再発生存期間および全生存期間に関する予後因子の同定を行うことを目的としています。

【意義】

切除可能な大腸癌肝転移における予後因子の解析を行うことにより、今後臨床研究を行う際に、治療対象集団の決定や、治療レジメンや期間の決定などにつながることを期待できます。大腸癌肝転移患者さんの治療成績向上につながると考えられ、本研究の社会的意義は大きいと考えられます。

【対象】

2015年1月1日から2016年12月31日までに、当院において大腸癌肝転移に対して肝切除術を施行した症例

【研究責任者（情報の管理について責任を有する者）】

りんくう総合医療センター外科 種村 匡弘

【利用し、または提供する情報の項目】

患者基本情報（性別、生年月日等）、原発巣総合情報、原発巣病理情報、原発巣術後補助化学療法情報、肝転移診断時情報、肝転移切除前治療情報、肝転移化学療法前情報、肝転移手術前情報、肝転移手術情報、肝転移巣病理情報、肝切除後補助療法情報、予後情報などを診療記録より収集します。

【情報の利用目的および利用方法】

上記項目データを匿名化、また登録番号を用いて管理を行い大阪大学消化器外科共同研究会へ提出します。多施設の情報と集積され解析作業が行われます。

【利用する者の範囲】

この研究は、多施設との共同研究で行われます。研究で得られた情報は、共同研究機関内で利用されることがあります。

【研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用又は他の研究機関への提供を停止すること】 希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、本研究に関する研究計画書等を見ることが出来ます。また、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止することが可能です。以下の「問い合わせ先」にご相談ください。

【個人情報の取り扱い】

研究対象者のプライバシーは厳重に守られ、また、その他人権に関わる事項についても十分な配慮がなされます。本研究の登録の際には氏名やカルテ番号等の個人情報の匿名化を行うため、研究対象者の名前や個人情報が特定・公開されることはありません。収集した臨床情報に関しては、個人情報の保護に細心の注意を払い、情報の漏洩、紛失、転記、不正な複製などがないように研究を実施します。

【問い合わせ先】

りんくう総合医療センター外科 種村 匡弘 TEL:072-469-3111

●研究組織代表者名

大阪大学消化器外科共同研究会 大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学
教授 土岐 祐一郎、江口英利

●研究事務局：大阪大学消化器外科共同研究会 TEL：06-6879-3251